

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K17640

研究課題名(和文)在宅認知症高齢者と介護家族のソーシャルサポート獲得ICT支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of an ICT support program for acquiring social support for old adult with dementia at home and caregivers.

研究代表者

安武 綾 (Yasutake, Aya)

熊本大学・大学院生命科学研究部(保)・准教授

研究者番号：40366464

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、在宅認知症高齢者の介護家族のソーシャルサポート尺度を用いて評価することを目的とした。

2020年度は、2019年度の調査結果をまとめ、研究協力者と関係機関、国際アルツハイマー学会等へ公表し、調査地域の特徴と今後の課題を明確にすることができた。

2021年度は、地域のソーシャルサポートを掲載したICT環境を更新し、現況の活動状況を反映させ、COVID19感染拡大により、地域のソーシャルサポートが減少していることなどの課題が明確になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究協力者と関係機関、国際アルツハイマー学会等へ公表し、国際的にも調査地域の特徴と今後の課題を明確にすることができた。さらに、地域のソーシャルサポートを掲載したICT環境を更新し、現況の活動状況を反映させ、COVID19感染拡大により、地域のソーシャルサポートが減少していることなどの課題が明確になった。一方で、認知症高齢者介護家族の個々のニーズに合ったソーシャルサポートを、日常的に構築することの重要性を明らかにできた。

さらに、地域住民がソーシャルサポートに容易にアクセスしやすいようICT技術を活用し、広くwebに公開したことは社会的意義が大きいと考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to evaluate the social support scale for families caring for elderly dementia patients at home using the Social Support Scale.

In FY2020, the results of the FY 2019 survey were compiled and presented to research collaborators, relevant organizations, and the International Alzheimer's Association to clarify the characteristics of the study area and future challenges.

In FY2021, the ICT environment listing social supports in the region was updated to reflect current activities and clarify issues such as the decrease in social supports in the region due to the spread of COVID19 infection.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：認知症 家族 介護者 ソーシャルサポート

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省によると2025年の認知症患者は現在の約1.5倍の700万人を超えると推計されており、認知症になっても安心してらせるまちづくりのために、地域包括ケアシステムの構築が急務である。また、発症初期の在宅認知症高齢者を支える介護家族は、患者の言動が認知症状であるということや介護が大変であることを、周囲から理解してもらえないと感じ、社会的にも孤立し援助を求めにくい状態であり、早期診断・早期対応につながりにくいことが明らかになっている。

これまでの応募者の研究(H26-H28)によると、在宅認知症高齢者を介護する家族が適切なソーシャルサポートを獲得することで、家族の介護負担感が低下し、主観的健康感が高くなることが明らかとなった。そこで、在宅認知症高齢者の介護家族に対し、**ソーシャルサポートを獲得するe-ラーニング支援プログラムを開発**することは、在宅認知症高齢者の介護家族が認知症を正しく理解し、適切な時期に適切なソーシャルサポートを獲得し、介護家族の介護負担感を軽減させ、主観的幸福感を高めると考えられる。

2. 研究の目的

在宅認知症高齢者の介護家族に対し、ソーシャルサポートを獲得するe-ラーニング支援プログラムを開発し、プログラムの効果を 応募者が開発した在宅認知症高齢者の介護家族のソーシャルサポート尺度を用いて評価することを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

- 1)在宅認知症高齢者の介護家族がソーシャルサポートを獲得するためのe-ラーニング支援プログラム(案)の予備的調査の後、本調査を実施した。
- 2)在宅認知症高齢者の介護家族がソーシャルサポートを獲得するためのe-ラーニング支援プログラム(案)の評価として、介入群・対照群において、応募者が作成した「在宅認知症高齢者の介護家族のソーシャルサポート尺度」と、従属変数として介護家族のQOL・介護負担感・抑うつ状態、認知症の行動・心理症状との関連を評価した。
- 3)調査方法：web調査
- 4)調査対象者：在宅で生活する認知症の方のご家族36名、対象者の管轄地域包括支援センター5ヶ所

4. 研究成果

研究協力者と関係機関、国際アルツハイマー学会等へ公表し、国際的にも調査地域の特徴と今後の課題を明確にすることができた。また、地域のソーシャルサポートを掲載したICT環境を更新し、現況の活動状況を反映させ、COVID19感染拡大により、地域のソーシャルサポートが減少していることなどの課題が明確になった。一方で、認知症高齢者介護家族の個々のニーズに合ったソーシャルサポートを、日常的に構築することの重要性を明らかにできた。

さらに、地域住民がソーシャルサポートに容易にアクセスしやすいようICT技術を活用

し、広く web に公開したことは社会的意義が大きいと考える。

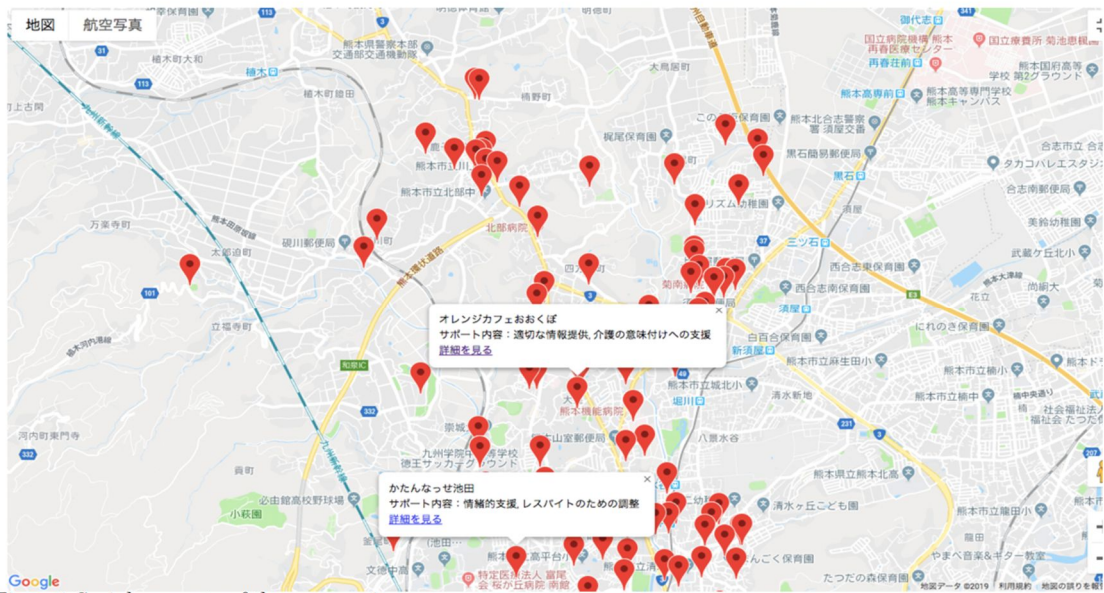


Figure1 Social supports of the community

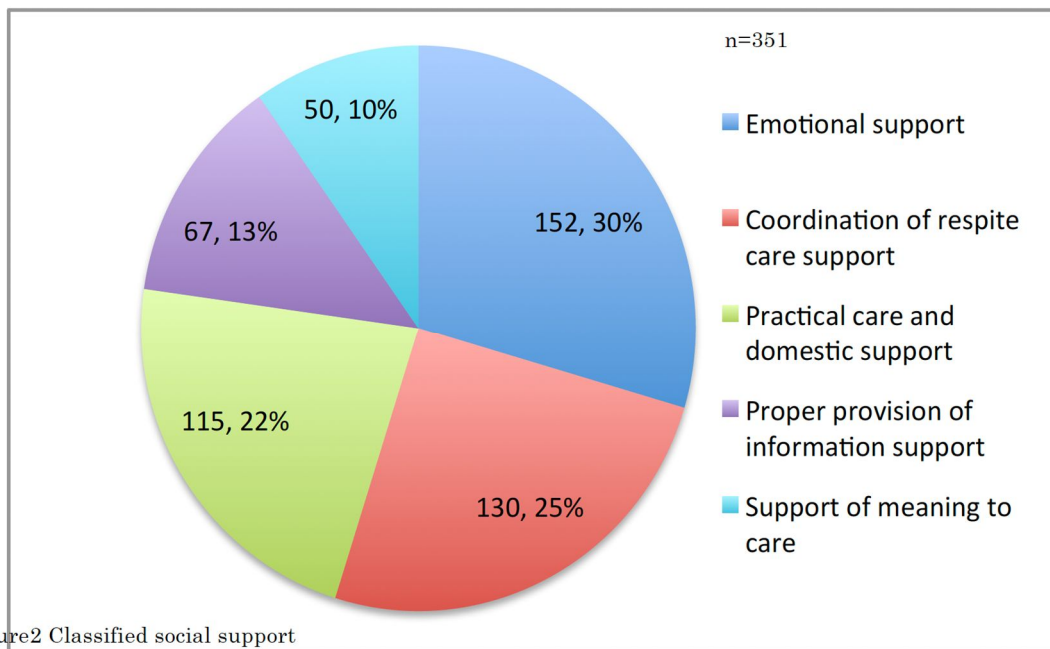


Figure2 Classified social support

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 浦田 姫佳, 安武 綾	4. 巻 18(3)
2. 論文標題 若年性認知症家族のステージごとの体験：2000年以降のわが国の質的研究報告の知見から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 697 - 706
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安武 綾	4. 巻 45(13)
2. 論文標題 在宅認知症者と介護家族のソーシャルサポート獲得ICT支援プログラム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Medical Science Digest	6. 最初と最後の頁 76-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安武 綾	4. 巻 1
2. 論文標題 その人の望む暮らしを支える地域包括ケアフォーラム-認知症になっても安心してらせるまちづくり-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熊本医学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安武綾	4. 巻 1
2. 論文標題 Orange Projectと認知症のひとと家族の会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公益社団法人認知症のひとと家族の会熊本県支部20年のあゆみ	6. 最初と最後の頁 89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼田桂一郎, 宮内大介, 前川春美, 松田修, 太田千里, 安武綾, 保々真紘	4. 巻 1
2. 論文標題 認知症安心ガイドブック-熊本市認知症ケアパス-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知症安心ガイドブック	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安武綾, 尾崎 章子	4. 巻 76巻増刊1
2. 論文標題 認知症高齢者と家族介護者への在宅看護	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本臨床	6. 最初と最後の頁 316-320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Yasutake, Aya; Kita, Toshihiro; Kawasaki, Chie
2. 発表標題 Development of Social Support Assessment System for People with Dementia and Family Caregivers at Home in Japan
3. 学会等名 Alzheimer's Disease International (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasutake, Aya; Kita, Toshihiro; Kawasaki, Chie
2. 発表標題 Development of Social Support Assessment System for People with Dementia and Family Caregivers at Home in Japan
3. 学会等名 Alzheimer's Disease International (国際学会)
4. 発表年 2019年~2020年

1. 発表者名 Aya Yasutake
2. 発表標題 Development of the community where people can peacefully live with dementia
3. 学会等名 2020 KMUH International Cancer and Long-term care Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aya Yasutake
2. 発表標題 Development of the community where people can peacefully live with dementia
3. 学会等名 Taiwan-Japan collaboration Elderly Care Community Forum in National Yunlin University of Science & Technology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aya Yasutake
2. 発表標題 Development of the community where people can peacefully live with dementia
3. 学会等名 打造共生宅台日綜合論壇 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浦田 姫佳, 安武 綾
2. 発表標題 若年性認知症者の家族のステージごとの体験—2000以降の日本の質的研究報告の知見から—
3. 学会等名 日本認知症ケア学会 九州・沖縄ブロック大
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安武綾, 江川陽子
2. 発表標題 在宅認知症高齢者と介護家族のソーシャルサポートと健康の特徴
3. 学会等名 日本認知症ケア学会 九州・沖縄ブロック大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安武綾
2. 発表標題 認知症介護家族のエンパワメントとソーシャルサポート
3. 学会等名 NPO法人あやの里家族会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安武綾, 信友直子
2. 発表標題 認知症になっても安心して暮らせるコミュニティとは
3. 学会等名 Orange Project記念式典
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安武綾, 岡元奈央, 能勢優希, 和田美幸, 松本千晴, 戸渡洋子
2. 発表標題 認知症カフェを拠点とした認知症サポーター活用の可能性
3. 学会等名 日本老年看護学会第23回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安武綾
2. 発表標題 在宅認知症高齢者家族のソーシャルサポート尺度の開発
3. 学会等名 日本老年看護学会第23回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安武綾
2. 発表標題 認知症の人が住み慣れた地域で暮らすための家族のケア
3. 学会等名 H30年度大牟田市認知症コーディネーター養成研修（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安武綾
2. 発表標題 認知症になっても安心してらせるまちづくり
3. 学会等名 熊本県熊本市北区城北ネットワーク会議（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安武綾
2. 発表標題 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり
3. 学会等名 熊本市東区 認知症サポートリーダー養成講座/認知症サポート実践ケア研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 安武綾	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 116
3. 書名 認知症plus家族支援	

1. 著者名 尾崎章子、佐野けさ美(偏著) 安武綾(分担)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 地域・在宅看護論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>地域のソーシャルサポートマップ https://script.google.com/macros/s/AKfycbx2QmB000EFUP_14xgkQ1ZeZ5oeNnNcfPBjW9bg3NS9LiPEktU/exec</p>

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

<p>国際研究集会 Japan-Taiwan Cooperative Dementia Care Symposium</p>	<p>開催年 2018年～2018年</p>
--	----------------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------